



知的障害者による支援者評価に関する研究

科研費
KAKENHI

課題番号 21K18472

本研究は文部科学省科学研究助成事業より研究資金を得ており、企業等との利益相反はありません。

本研究は旭川荘倫理委員会の承認を得て実施しています。(承認番号 R3-004)

～支援者評価の実施の概要～

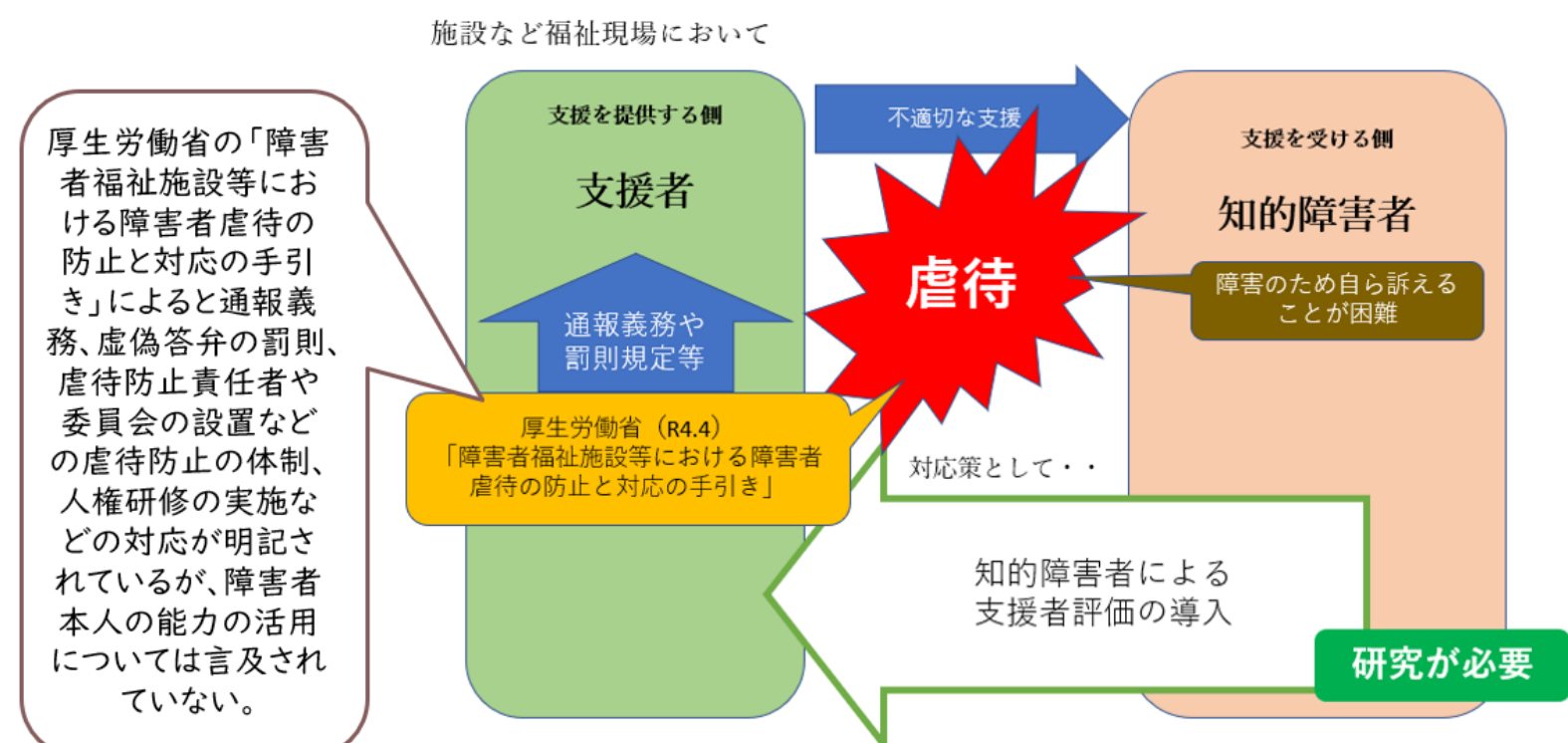
○長壽厚志¹⁾ 桑野良三¹⁾ 狩谷明美¹⁾ 川上雅司¹⁾ 池内 豊¹⁾ 川本大輔¹⁾ 池田歩²⁾ 末光茂¹⁾

1)旭川荘総合研究所 2)社会福祉法人 旭川荘

KEY WORDS: 障害者虐待 支援者評価 意思決定支援

問題の所在と目的

本研究は知的障害者が支援者を評価する体制を構築することを目的としている。厚生労働省の発表によると、障害者福祉施設従事者による障害者虐待件数は右肩上がりである。人は非対称的な人間関係や立場において、不適切な事案を生じさせる。知的障害者と支援者は、支援をする方、される方という関係であり、知的能力により、訴えることが困難である場合がある。知的障害者が支援者の評価を行う体制を構築することで、その非対称的な関係を緩和し、虐待などの不適切な事案の早期発見や防止に効果が得られると考える。



方法

対象の知的障害者:言葉は無くともジェスチャー等で意思を表出できる人から、意思疎通に問題がない人まで

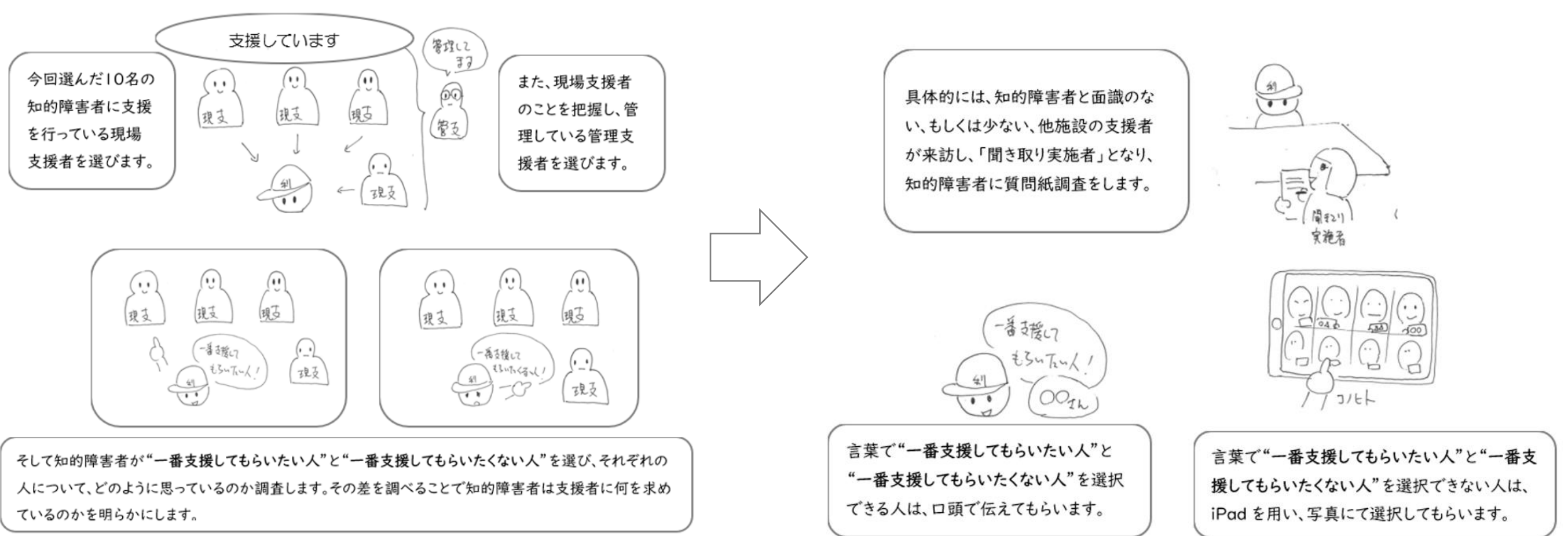
研究実施期間:令和4年6月12日から9月28日の間

研究実施の方法:質問紙法による。質問紙は平易な表現を用い、支援者との信頼関係を確認するための内容を主とした24項目の質問を作成、使用した。「支援してもらいたい職員」「支援してもらいたくない職員」を口頭もしくは写真を用い、知的障害者に選択してもらい、その職員について知的障害者に質問をするという手順で行った。

○バイアス軽減のため、他施設の面識のない職員が訪問し、聞き取りを実施した。

○知的障害者の回答の再現性を確認するため、1度目の聞き取りの約1か月後に再度同じ職員が訪問し、聞き取りを実施した。

○研究に参加した知的障害者の知的能力と聞き取り結果等を比較するため、全員に適応行動尺度ヴァインランドⅡを用い、能力評価を行った。



聞き取りの様子

表1.知的障害者に回答を求めた質問紙

質問	P/N	質問方法
Q1 【職員名】さんは【利用者名】さんの気持ちや言いたいことなどを聞いてくれますか。	P	2件法
Q2 【職員名】さんは【利用者名】さんが自分で決められるようにしてくれますか。	P	2件法
Q3 【職員名】さんは【利用者名】さんが困ったときどうすればいいか教えてくれますか。	P	2件法
Q4 【職員名】さんは【利用者名】さんがわかりやすく紙などにかいて説明してくれますか。	P	2件法
Q5 【職員名】さんは他の人とのけんかやめ事を助けてくれますか。	P	2件法
Q6 【職員名】さんは【利用者名】さんが過ごしやすい(環境 or 場所 or ところ)を用意してくれますか。	P	2件法
Q7 【利用者名】さんは施設の外に出る機会や施設以外の人とかかわる機会がありますか。	-	2件法
Q8 【職員名】さんは施設の外に出る機会や施設以外の人とかかわる機会(個別支援計画 or うちの計画 or 目標を書いたもの)を立てて or 作って くれますか。	P	2件法
Q9 【職員名】さんに叩かれたり、蹴られたり体罰を受けますか。	N	2件法
Q10 【職員名】さんは【利用者名】さんが困っていても助けてくれないことはありますか。	N	2件法
Q11 【職員名】さんのことを怖いと感じることがありますか。	N	2件法
Q12 【職員名】さんはイヤなのに体に触ってくることはありますか。	N	2件法
Q13 (預かり金がある施設のみ) 【職員名】さんは【利用者名】さんが買いたいものがあるときに相談のしてくれますか。	P	2件法
Q14 【職員名】さんは勝手に【利用者名】さんの大切なものを触ったり捨てたりすることがありますか。	N	2件法
Q15 【職員名】さんに命令されたり、大声で叱られることがありますか。	N	2件法
Q16 【利用者名】さんは周りの人に大切にされていると思う？思わない？	-	4件法
Q17 【職員名】さんは【利用者名】さんに笑顔でやさしく接してくれると思う？思わない？	P	4件法
Q18 【職員名】さんは【利用者名】さんのことをダメとか無理とか否定すると思う？思わない？	N	4件法
Q19 【職員名】さんは【利用者名】さんの約束を守ってくれると思う？思わない？	P	4件法
Q20 【職員名】さんは【利用者名】さんに嫌なことをすると思う？思わない？	N	4件法
Q21 【職員名】さんは説明なく【利用者名】さんのことを勝手に決めることがあると思う？思わない？	N	4件法
Q22 【職員名】さんは【利用者名】さんのしたいことや好きなことを応援してくれると思う？思わない？	P	4件法
Q23 【職員名】さんは【利用者名】さんにとって(必要だ or 大切だ or いらない)と思う？思わない？	P	4件法
Q24 今後も職員さんについてお聞きすることを続けてほしいですか？	-	2件法

注1 P/N P: 支援者にとって望ましいと思われる行動・態度 N: 支援者にとって望ましくないと思われる行動・態度

注2 2件法: 「はい」「いいえ」「わからない」 4件法: 「大きく思う」「少し思う」「少し思わない」「大きく思わない」(「わからない」)

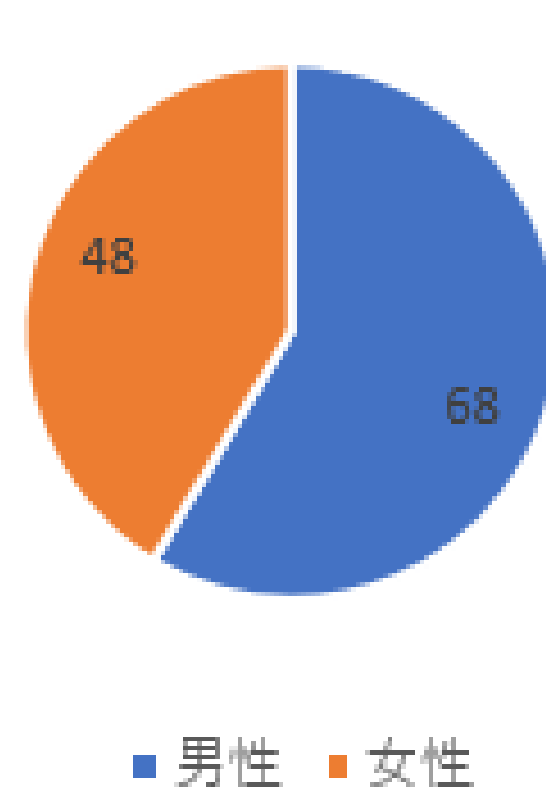
結果

研究対象者

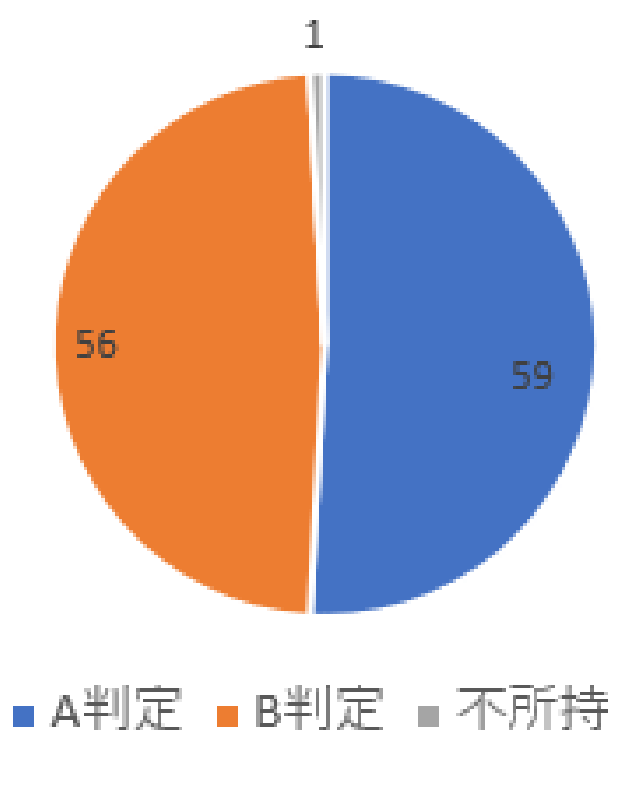
旭川荘知的障害関係入所・通所施設
入所系 6施設
通所系 6施設
計12施設

知的障害児・者 116名
現場支援者 254名
管理支援者 23名

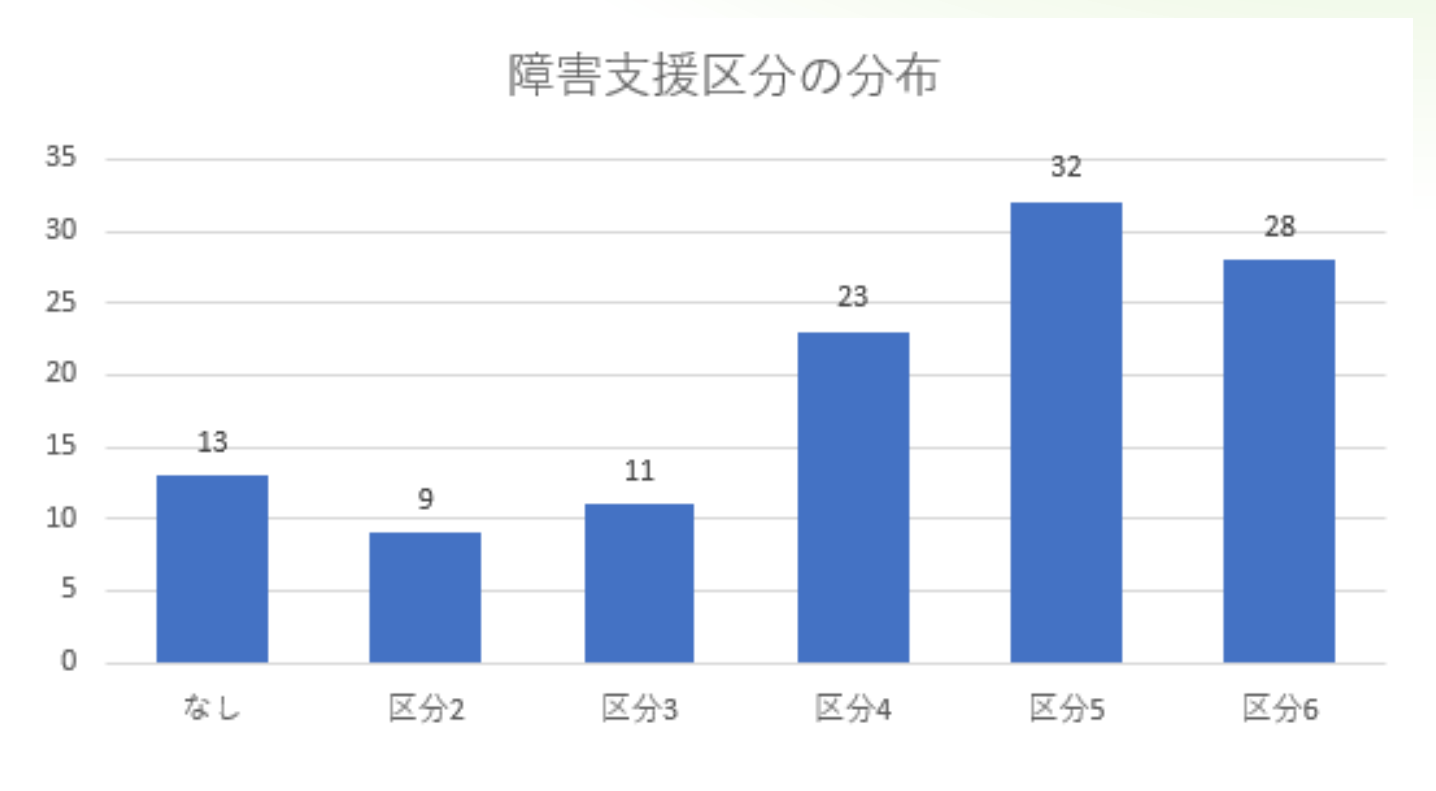
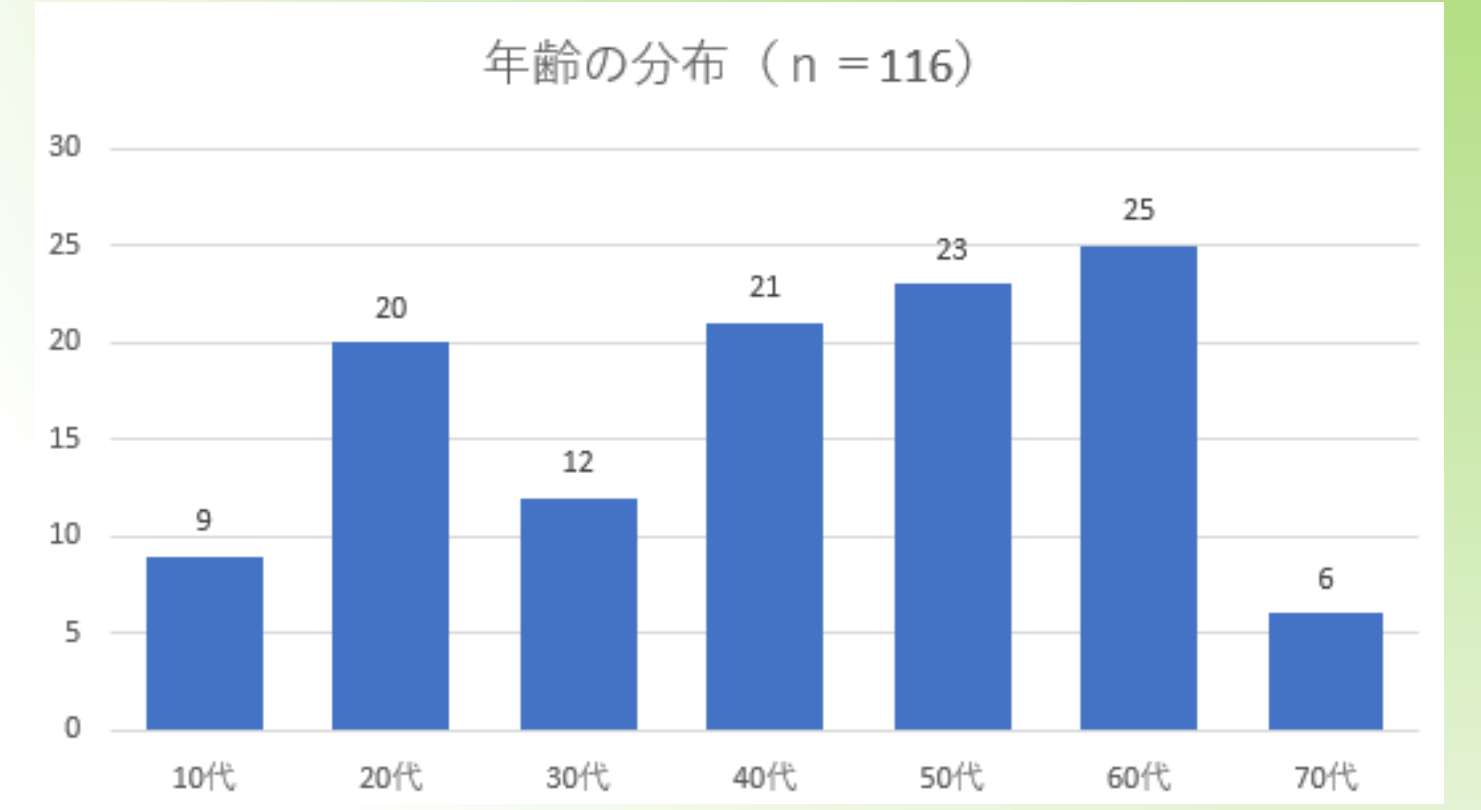
男女比



療育手帳所持の状況



回答した知的障害児・者の基本属性

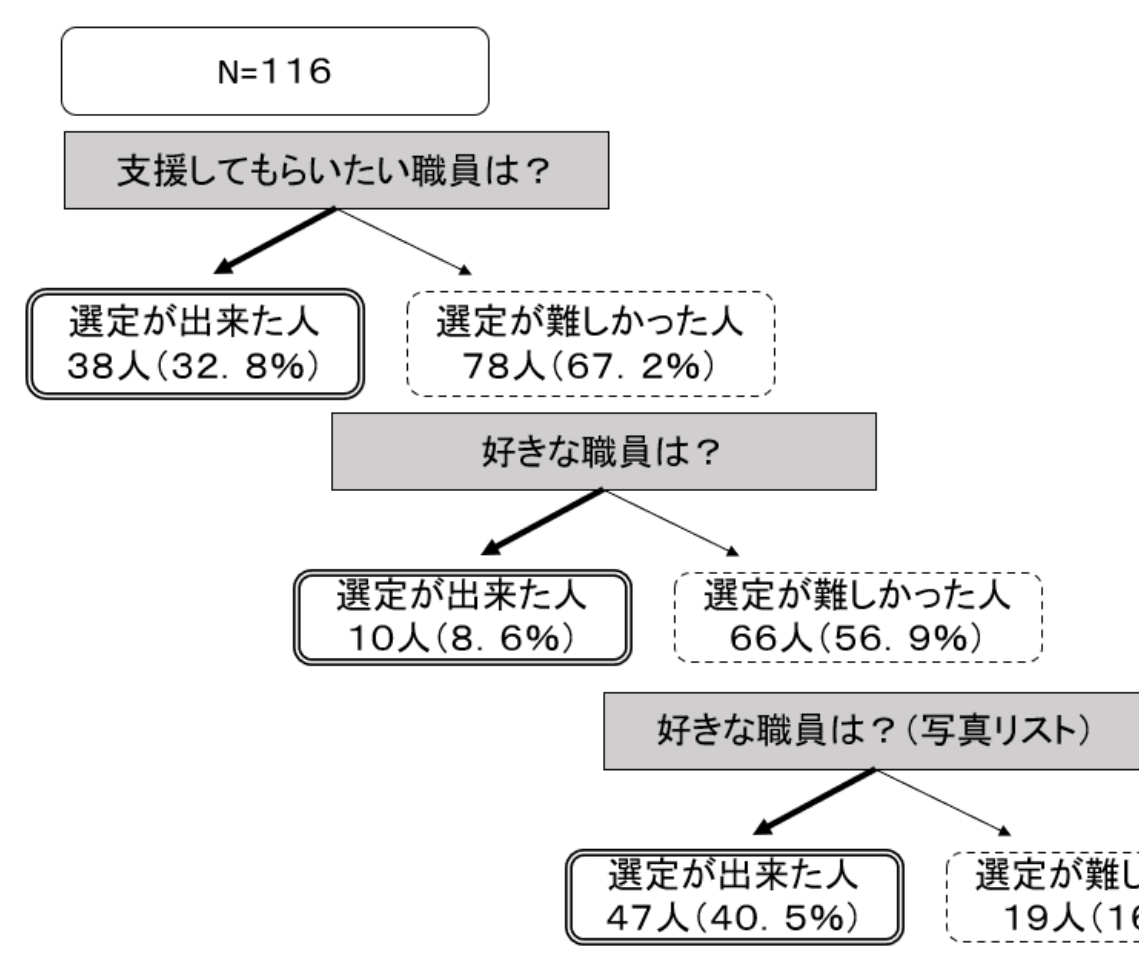


Vineland-II 適応行動尺度から見る適応水準(記述分類)の内訳(人数)

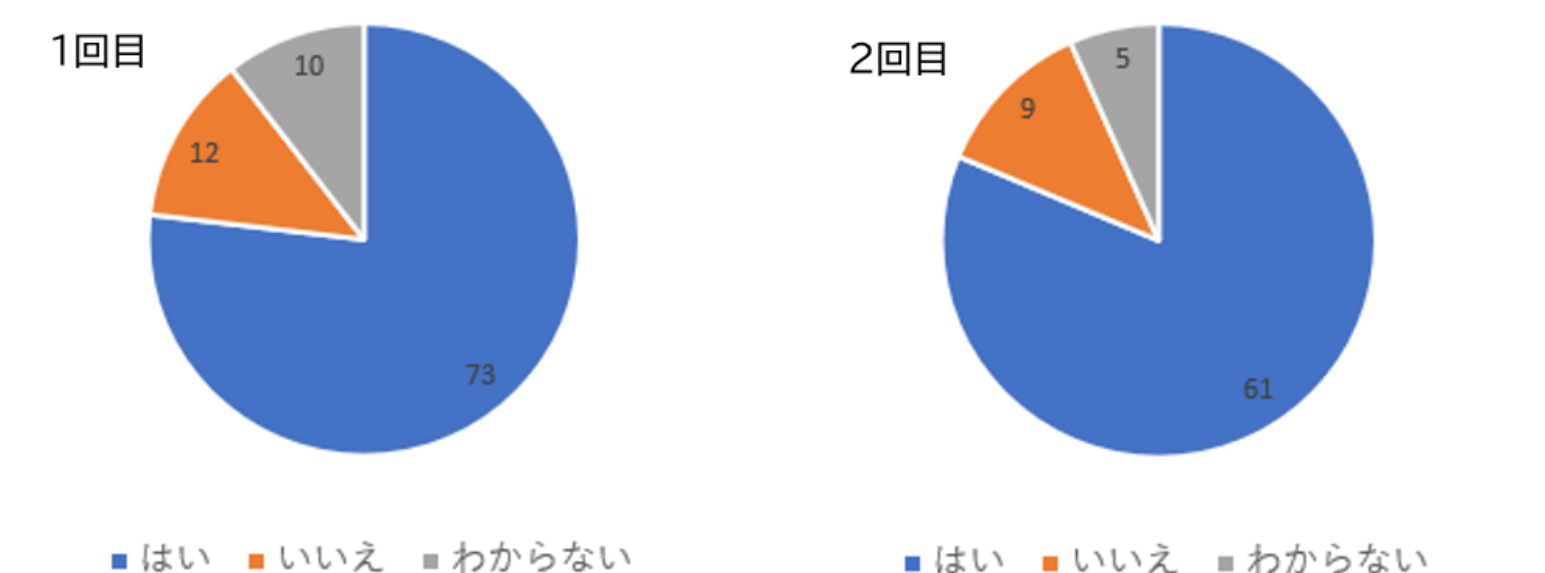
分類	得点	適応行動総合点	コミュニケーション領域得点
最重度の障害	~20	94	87
重度の障害	21~35	10	17
中等度の障害	36~50	5	2
軽度の障害	51~70	2	6
やや低い	71~	3	3
合計		114	115

V評価点と適応水準(記述分類)の内訳(人数)

適応水準	得点	受容言語	表出言語
低い	1-9	68	108
やや低い	10-12	10	1
平均的	13-17	37	6
合計		115	115



質問: 今後も職員さんについてお聞きすることを続けてほしいですか?



・支援者評価を実施することについて、知的障害者は肯定的な人が多い。

○ヴァインランドⅡにおける総合得点やコミュニケーション領域得点では今回の知的障害者群は最重度領域の人が多くなった。下位領域において「受容言語」スコアに比べ、「表出言語」スコアは極めて低いことがわかった。
○重度知的障害者が多い群であったが、口頭だけではなく写真等を用いるなど、聞き取り方法の工夫を行うことで、対象116人のうち、「支援してもらいたい職員」について95人、また、「支援してもらいたくない職員」について47人選択し、回答を得ることができた(1回目聞き取り)。両者に差が生じた。
○支援者評価の聞き取りの継続を希望する知的障害者が多かった。

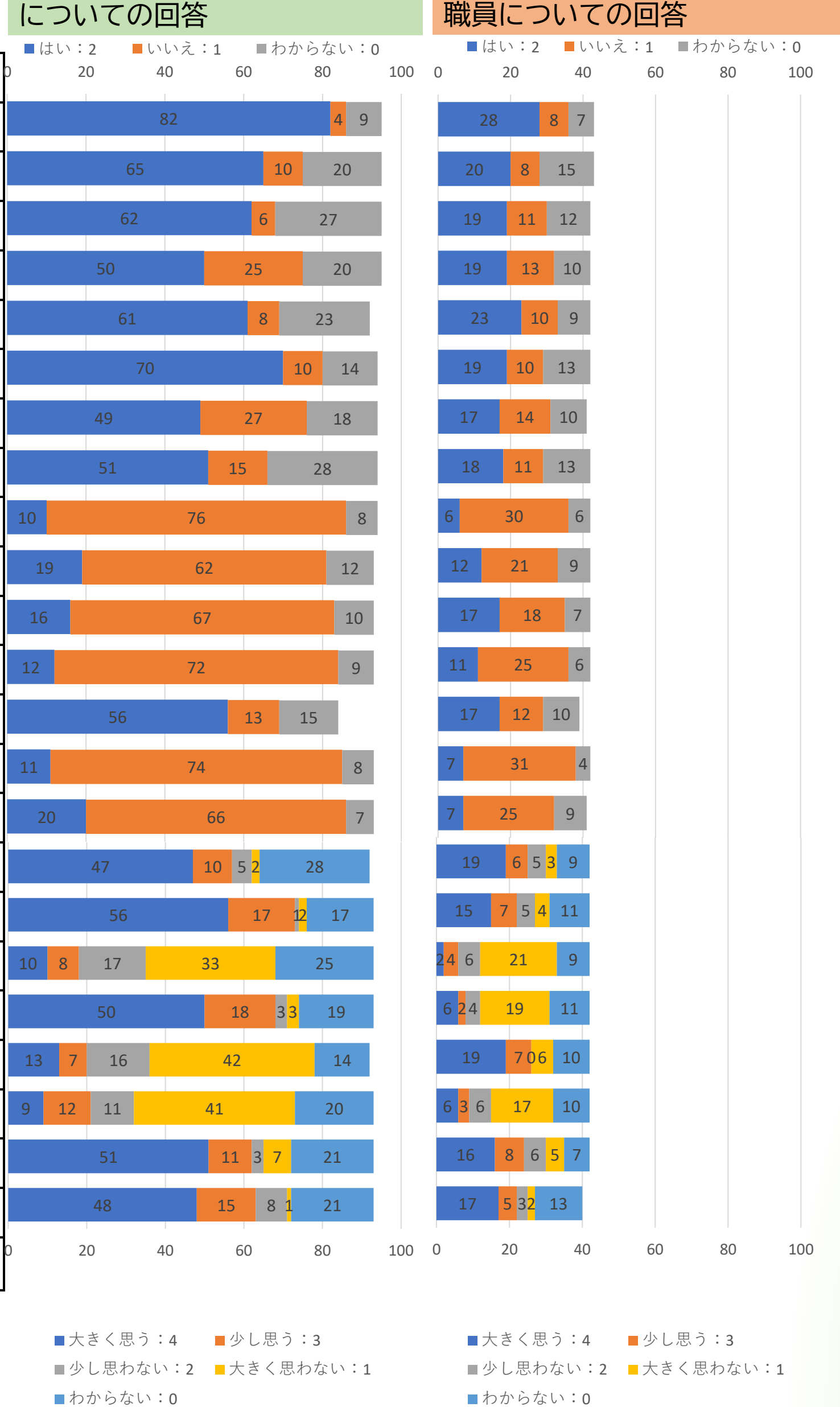
結論

○知的障害者は話を理解する能力に比べ、言葉で表現する能力が低い。今回の聞き取りの様に、日常に根差した話題で、具体的に、断片的に聞きとることで、知的障害者の意思を確認できる可能性が示唆された。
○知的障害者が支援者を評価するというかつてない取り組みであったが、知的障害者の多数の人が肯定的に捉え、継続を希望していることがわかった。

今後の展望

今回は知的障害者が支援者を評価したことの概要について報告したが、今後回答内容に着眼し、ニーズの所在、客観性、それらと知的障害の軽重の関係など下位分析を行っていく。
また、本研究は知的障害者から評価を受けた支援者側にも質問紙調査等、データ収集を行っているため、その結果も明らかにしていく。

1回目 支援してもらいたい職員についての回答



1回目 支援してもらいたくない職員についての回答

